

第3回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議（第1部会）会議録

日 時 平成27年9月9（水）13時30分から

場 所 周南市役所3F 防災対策室

出席者 ・委員 4名

佐伯哲治、竹村恭典、江本伸二、竹田英保

・担当課・事務局職員 7名

宮崎正臣、田畑宣弘、岡田周造、大平幸男、磯村幸彦、行富広康、中村成孝

会 議 議 事 録

1 開 会

（委員・職員の自己紹介）

2 グループワーク

- （1）前回の振り返りと総合戦略掲載施策・事業の検討
- （2）重要業績評価指標、基本目標に対する数値目標の検討

- 港湾に伴う道路整備はおこなわれていないのか。
- 地震等の災害リスクが小さいことを積極的にPRしても良いのではないのか。
- 周南市と同レベルの市と比べて企業立地の補助はどうなっているのか。成功している自治体に比べると弱いように感じる。
- 企業誘致には、良質な労働力の供給が重要なファクターの一つである。地元の産業界と現在市内にある高専や徳山大学などの学科とのマッチングが上手く図られていないのではないのか。もう少し検証すべき。官民一体となって若者が地元に残れる仕組みを考える必要がある。
- 企業誘致をするのであれば、用地の情報供給が不十分。NPO法人や生産組合等に経営コンサルタントを付けて営利企業に育成すれば雇用の増加につながるのではないのか。小規模の企業についても目を向けてはどうか。
- 補助金は雑収入となる。税金の緩和策がないか。
- 引き抜かれる企業もあるのか。
- ニーズの把握も重要と考える。アイデアコンテストなどを企業に募集して、賞金に代わる名誉をあげたら良いのではないのか。
- 商工会議所に対する経営者指導事業への支援が、資金的なものであるならば、税金を投入する以上、運営指導事業の内容も含めてきちんと精査できる仕組みを考える必要があるのではないのか。

- 補助金を受けている事業者は、支援を受けていることが分かるように看板などを設置するなどの表示をしてはどうか。補助金を使ってやっている意識をきちんと持ってもらうのはどうか。
- 現在の補助金は一点集中というより、広く浅くであることから、補助金を受ける側の意識が低い。戦力の小出しは全滅に繋がる。一点集中的に補助金を投入していくことも視野に入れてはどうか。
- 就労支援について、若者サポートステーションは効率化を求めるようなものではない。社会政策的な側面が強いため、本部会のテーマに全く関係が無いわけではないが、重きを置くのであれば3部会になるのではないか。
- 水素については、地元の研究機関などの人材がいると良い。高専などと連携し、官民学が連携出来ると良い。
- 水素を通常的に使用していくのであれば、充填スタンドがもっと必要。高速の入り口や新南陽など水素ステーションを増やす必要があるのではないか。
- 就農者や漁業従事者を増やすのは良いが、まずは市場を増やす必要があるのではないか。
- 現在、販路拡大のために漁師が直接道の駅へ出荷できる仕組みを作ろうとしているが、市場と機能が重複してしまう。
- 魚市場が疲弊するのは困るが、ダイレクト販売は時代の流れ。農協も解体されたら自主販売となる。今のうちに何らかの手を打つべき。
- 他県では、新規就農者や漁業者のために、行政が首都圏に販路を拡大していった。直接販路を開拓したことで、地域ブランドとして付加価値がついて利益もあがり、結果的に新規漁業者の獲得につながったとのこと。周南市も、市場も卸売業者も漁師も手を携えないと共倒れになってしまう。
- 居酒屋が漁師と協力して、魚を買い取る仕組みもあり、これも販路拡大の手法のひとつになるのではないか。
- 市場流通についても考え直す必要があるのではないか。
- 急速冷凍が出来るような冷凍庫を導入して売れ残りをどうにかできないか。
- 高知県でキャス冷蔵庫^{*}を導入し、遠方にも生でカツオを提供できるようになって付加価値を付けている。購入するには数千万かかるが、小さい補助金をちょこちょこ出すよりも、こういった大きなものに特化して補助金を出すというのも手ではないか。
- 6次産業については、技術の養成支援が必要なのではないか。若者に技術支援をすることで、高齢化している加工所の後継者不足の解消にもつながるのではないか。高齢者には今までの作り方などのノウハウやこだわりがあり、若い人たちとの間に隔たりがある。若者を素人のまま送り込むのではなく、研修を経てある程度技術を身に付けた上で加工所に送り込む方が摩擦がなくて良いのではないか。

加工所を研修先の一つとして位置付けしてはどうか。

- 流通業で成功する秘訣は数。在庫をいかに管理できるかが大事。
- 儲かるためには、どのように販路をつくるか。市独自で流通をどうやって確保していくか。販路が無ければ成功しない。技術を身に付ける場を作ることと並行して流通を確保することが肝要。
- 気力はあるけどお金が無いという人には、補助金だけの支援では不十分。建物や装置などは全て用意するぐらいは必要。
- 今の補助金などの支援体制を継続させていくだけでは、ただお金が減るだけ。やる気とアイデアを持っている人に対して、施設等は行政側が全て用意し、その代り審査はしっかりするなど、支援体制の方向を見直ししても良いのではないか。

3 閉会

(次回開催案内)

※キャス冷蔵庫

CASは「Cells Alive System」の略で、磁気エネルギーを用いて細胞の破壊を防ぎ、凍結前と変わらない状態を保つことができる技術。解凍するだけで生のような鮮度、作りたての美味しさを再現することが可能。